

各位

言語力検定

読み、書き、考え、伝える力

言語力向上のための一歩を

—子どもの言語力向上のためのワークショップ—

(教員等指導者研修会) ご案内—

平成 22 年 2 月 吉日

財団法人 文字・活字文化推進機構

平成 22 年度、「子どもの言語力向上のためのワークショップ」の講師を派遣します

昨年 6 月から 9 月まで全国 11 都市で「子どもの言語力向上のためのワークショップ」を開催しました。今年
は北川達夫先生（日本教育大学院大学・客員教授）がみなさまの研究会等への派遣要請にお応えします。ご希望
に合わせ、派遣内容や条件についてご相談に応じますので、下記申込用紙をご返送下さい。

講習会基本概要（ご参考までの基本概要です。ご要望と異なる場合はご相談に応じます）

派遣講師	北川達夫先生
対象、規模	学校および塾の教師、教育行政担当者など。参加者 50 から 100 名程度
研修内容	①PISA 型読解力、言語力とは②言語力を育む発問や授業などの実践③言語力検定の説明
費用ほか	主催者様には会場、集客、当日の受付等の対応をお願いします。その他に、講師派遣費用、教材費用などをご負担いただきます。

「子どもの言語力向上のためのワークショップ」参加者の感想

昨年開催した「子どもの言語力向上のためのワークショップ」では、講師による PISA 型読解力及び言語力の
解説の後、参加者全員が言語力検定例題に挑戦、例題解説に続き、学校などでの指導法実践講習が行われました。

- ・ 難しい文章を短時間に理解し、問いを解くことに久しぶりに取り組んだ。子どもたちに足りない部分について、考えさせられた。(私立小学校教諭)
- ・ 以前から言語力、読解力について重要性を感じていた。実際に解いてみて、親しみやすく興味を持てる問題であり、内容もとてもためになると感じた。(村立小学校教諭)
- ・ 言語力検定は子どもだけでなく大人への必要性を感じた。私は理科の教員だが、国語以外の教員にこそ、このような体験をする必要があると思う。説明文の発問作りの参考にもなった。(県立中学校教諭)
- ・ さまざまな角度から文章を読むことの大切さを感じた。文章の読解の仕方について、考えさせるという意味で授業法の大きなヒントとなった。(私立高等学校教諭)
- ・ 国語科担当として、奇しくも PISA 型指導をしてきた。言語力検定実施の意義を感じた。(学習塾講師)

-----申込用紙（このまま 03-5211-7285 まで FAX してください）-----

学校・団体名 _____ 申込者役職、氏名 _____

住所 〒 _____

TEL (_____) _____ FAX (_____) _____ メール _____

開催予定日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 講習会所要時間 _____ 分間 テーマ _____

参加対象 (例：全教科教諭など) _____ 参加予定人数 _____ 人

備考 _____